

令和 4 年度 高等教育研究コンソーシアム信州 学生活動支援事業活動報告書

団体等名	信州の食でツクル未来プロジェクト	
代表学生	所属大学名・学部・学年	信州大学農学部生命機能科学コース 2 年
	ふりがな 氏名	すぎやま なごみ 杉山 和
教職員責任者	所属大学名・職名・ ふりがな 氏名	信州大学 キャリア教育・サポートセンター講師 かつまた たつお 勝亦 達夫

活動名	信州の食でツクル未来プロジェクト
実施時期	2022, 2023 年度
実施場所	長野県内
活動内容	<p>信州の食に注目し、現代社会の食についての学生活動によって解決することを目的に、今年度は学生を中心に長野県内で活動を行った。</p> <p>2021 年度 2 月 26, 27 日の「伊那・長野若者会議」において、「報われないうりんごを救え！～間引き林檎のシンデレラストーリー～」をテーマに、摘果林檎の活用の議論を行った。これをきっかけに、摘果林檎の活用方法を、企業・生産者（林檎農家）とともに始めた。</p> <p>この活動における課題は、以下の通りである。</p> <p>長野県の特産品について調査したところ、廃棄林檎には利用価値があり、ほとんどがジュース、ジャムになって新しい価値を生み出していた。実際に農家さんにお話を伺ったところ、それよりも課題なのは摘果林檎であった。摘果とは、美味しいリンゴを作るために必要な工程のことである。一番育ちが良さそうな実を残して、間引くことによって、一つの果実に栄養や糖分を集まるようにする。この際に間引かれ捨てられる林檎のことを摘果林檎と言う。林檎の木になる果実のうち 90%は摘果されてしまう。長野県の林檎作付面積 7200ha から計算すると、推定 29690t の摘果林檎が廃棄されていることとなる。</p> <p>この課題を解決すべくこの会議を元に実際に摘果林檎を用いた商品を開発することを目標に活動を行う。長野県の特産品である林檎を用いて、より長野の林檎の良さや食品ロスの削減意識を広めていくことも目指す。</p> <p>今年度の活動では、実際に摘果林檎を用いた商品を販売しているマツザワホールディングス、株式会社高見澤の 2 社に協力をいただき、商品開発に向けてそのプロセスについて学んだ。</p>
活動の成果と今後の課題	<p>SNS の更新、農家さんの実際の声を聞く、マツザワホールディングスによる摘果林檎の集荷説明会、集荷の見学、摘果林檎をもちいた商品の試作会を行った。</p> <p>5 月に実際に摘果作業を体験し、林檎農家さんの仕事についての理解を深め農業の課題について考える機会を持った。これを踏まえ、2022 年度は、以下の事業を実施した。</p> <p>活動記録</p> <p>7 月：集荷説明会見学@松川町、飯田市 集荷場見学@マツザワホールディングス</p> <p>8～9 月：善光寺合宿@長野市 新型コロナウイルス感染症の影響により中止</p> <p>アイデア出し・ディスカッション@松本市</p> <p>10～1 月：製品・企画会議 定例ミーティング@オンライン</p> <p>2 月：アイデア発表@株式会社高見澤特産事業部(中野市)</p>

摘果林檎の商品を考える前に、まず仕入れ先の状況を把握した。マツザワホールディングスの集荷場見学では、実際に訪れた農家の方々にインタビューをし、摘果林檎を活用することについてのメリット・デメリットや、この活動についての意見を聞いた。仕入れ先は確定していないが、自分達で摘果林檎を集めるには、地域単位で林檎栽培の仕組みを変えていかななくてはならないことを知った。そのため、仕入れ先としては、現在摘果林檎を集荷できるシステムができているところに協力いただくのが現実的ではないかという結論に至った。

8月には実際に試作を行うためのイベントを予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大により中止となった。今回実現には至らなかったが、商品化についての活動が具体的に進んだ暁には会場先として予定していた善光寺大勸進でのイベントを行いたいと考えている。

8月中は各自で試作を行い、それぞれ摘果林檎の使い道を実践的に考えた。それを踏まえ、9月にかんてんぱぱ松本店のフリースペースをお借りし、摘果林檎と株式会社高見澤の摘果果パウダーを用いた食品の試作会を行った。この試作会では焼き肉のタレ、ドレッシング、林檎のコンポート、林檎のロールパン、林檎ベビーカステラ、林檎クッキーを作成または試作品を持ち寄り、試食した。この試作会にて、今後株式会社高見澤の摘果果パウダーをもちいた林檎クッキーの開発を今後の具体的な活動としていくことを決定した。



↑9月試作会の様子

10～1月は、摘果果パウダーを用いたクッキーを各自で作成し、改良した。また、摘果果パウダーを使ったクッキーを実際に株式会社高見澤さんに食べてもらい、これまでの活動について発表する機会を得た。この共同会議は2月に予定している。



↑個人試作会の様子

常時活動として、これらの一連の活動を Twitter、Instagram で発信した。SNS を用いてプッシュ型で発信し、フォロワーを得て感心をもってもらうこと、信州の食についての広報や学生の食や農業に関する意見を発信することが目標であったが、イベント中止を受け、更新頻度が減少してしまった。そのため、今後はより自分達の活動についての発信を活発にすることを目標としていきたい。

※記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。

※活動内容が分かる資料や写真等があれば、添付してください。添付書類を含む活動報告書一式は、A4判4枚以内にまとめてください。活動内容だけでなく、活動団体のPRを行うことができる動画を添付することも可能です。

※提出された活動報告書一式は、各関係機関等に公表するとともに、高等教育コンソーシアム信州のHPへの掲載を予定しています。他人が写った写真等を許可なく使用しないなど、著作権や肖像権に配慮してください。